

第9課 矛盾する聖句？ 11月26日

1. 金持ちとラザロの例え話

- ①ルカによる福音書16章19～31節。この物語を文字通り受けとるべきではない、ということを明白にしているのは、どの部分ですか？
- ②この例え話から学べる、鍵となる教訓は何ですか？
- ③マルタとマリアの兄弟の復活は、人が死ぬ時に起こることについて、どのような希望を与えてくれますか？ ヨハネによる福音書11章11～14、23～27、38～44節。
- ④墓におけるベタニヤのラザロの経験について、彼が沈黙していることから、何を学ぶことができますか？

2. 死にゆくどろぼうに対するイエス様の証し

- ①ルカによる福音書23章39～43節。「今日」という副詞をどこに置くかが、なぜ、重要なのですか？
- ②イエス様はその日、パラダイスにいましたか？ ヨハネによる福音書20章17節。
- ③イエス様が弟子たちになさったどの約束が、死にゆくどろぼうにも約束となったのですか？ ヨハネによる福音書14章1～3節。
- ④救いは働きによるのではなく、救い主イエス様への信仰を通して神様の恵みのみによる、という事実を、この物語はいかに明示していますか？（エフェソの信徒への手紙2章8～9節も参照）

3. この世を去ってキリストと共に

- ①フィリピの信徒への手紙1章21～24節。パウロが「この世を去って、キリストと共にいたい」という希望を話した時、彼は何を意味していたの

ですか？

- ②主から受けたパウロの靈感に満ちた証しは、キリストと共にいたい、という彼の希望を理解するのに、どのような助けとなりますか？ テサロニケの信徒への手紙1・4章15～17節。
- ③キリストと共にいて義の冠を受けることをパウロが理解したのは、いつのことですか？ テモテへの手紙2・4章7～8節。
- ④「わたしは目を閉じ、死の眠りにつき、そして次にイエス様を見たいだけです！」と言う友人に、いかに応答しますか？

4. 獄に捕らわれている霊どもへの説教

- ①ペトロの手紙1・3章18節。イエス様が十字架で死に、ヨセフの墓に葬られた時の、彼の死の状態は、どんなものでしたか？
- ②死について、イエス様ご自身はどのように教えられましたか？ ヨハネによる福音書11章11～14節。
- ③ペトロの手紙1・3章19～20節。もしイエス様が墓で死の眠りについておられたなら、どのようにして彼は出て行き、誰かに説教することができたのですか？
- ④それでは、洪水前に罪の獄にいた人々に対し、聖霊はどのようにして説教したのですか？ ペトロの手紙2・2章5節。

5. 祭壇の下の魂

- ①ヨハネの黙示録6章9～11節。祭壇の下で叫んでいる魂は、文字通りの意味でしょうか？ それとも象徴的なものですか？
- ②誰かの血が叫んでいる、という記述は、聖書の他の場所にありますか？ 創世記4章9～10節。
- ③ディスカッションのための質問：命、死、復活、永遠の命について、聖書のすべての教えを研究することが、なぜ重要なのですか？